

## これまでの取組状況と今後の進め方について

### 1 これまでの主な取組成果

- 協働連携**
- ・ 県民参加組織「NPO 法人海上の森の会」との連携協働
  - ・ 企業連携 H24.8 現在 6 社と覚書締結

**他地域、他団体とのネットワーク**

- ・ あいち自然ネット（あいち自然環境団体・施設連絡協議会）設立(H19)
- ・ 情報交換・連携イベント等の実施

**「森の幼稚園（幼児森林体験の推進）」の取組**

- ・ プログラム(マニュアル)の開発、幼児森林体験フィールドの整備(H20)
- ・ マニュアルをテキストに指導者養成講座の開催(H21)
- ・ 自主的活動 H24.5 まで 延べ 49 回 4,254 名

**自然環境調査**

- ・ 湿地、森林、希少動物等(H18～)、センターが委託により実施

**他機関・他団体等の調査**

- ・ 大学等に成果の提供を依頼
- ・ 海上の森の会自然環境調査Gによる生物季節調査(H18～)  
情報ライブラリー等公開、23 年度分まで CD 化し、希望者に提供可能(H24)
- ・ 海上の森モニタリングサイト 1000 調査(H20～)  
日本自然保護協会が指導する植物・鳥等の市民調査、センターは哺乳類担当

**海上の森調査報告の作成**

- ・ 保全上の配慮をした上で上記調査結果等の積極的公開(H23～)

**サポーター制度の開始**

- ・ 個人として海上の森整備に貢献したい方々への参加の場を提供(H24～)。  
海上の森の会の行事等への参加提案
- ・ 24.8 現在 30 名が登録

**間伐材の活用**

- ・ 森林環境保全直接支援制度を利用し、材の搬出を実現(H24)  
※海上の森全般、良材がほとんどなく、これまではセンター事業利用が中心

### 2 来年度新規予算要求中の取組

**森林整備計画樹立のための森林基本図(システム)作成**

- ・ 林小班・植生・既存施設等を記載した森林基本図を作成、森林簿のGIS化、現地照合等を経て人工林森林整備計画の作成を目指す。
- ・ 万博継承事業(一般会計と別枠)として申請
- ・ 今年度の搬出状況・資源調査を参考とする。
- ・ 高齢級林分 0.5ha の間伐・搬出(循環の森→「百年の森」への誘導試行)

### 3 現状把握

#### 事業予算の減少

25年度以降、さらなる予算削減・合理化の進展が予想され、万博継承事業（平成28年度まで）の「あいち海上の森大学」「人と自然の国際フォーラム」以外については、予算確保が困難になっていくため、これにどのように対応していくかの検討が必要となる。

### 4 今後の進め方について

#### 自然環境調査

- ・これまでの調査水準をできるだけ落とさないための方策  
（委託費の削減→定期調査回数の減・簡略な方法への変更）  
ex. 他団体等との連携、サポーターの活用
- ・これまでの調査結果等を保全策として活かすための方策  
ex. 専門家からの意見聴取、検討会の実施、

#### 森林整備

- ・森林整備計画に基づく間伐推進
- ・間伐材の有効な利用方法
- ・カシノナガキクイムシ被害木・伐採跡地の取扱い  
ex. NPO・企業連携・サポーター・一般県民等の活用

#### その他

- ・体験学習プログラムの見直し
- ・里の管理の具体的計画の検討